

平成17年度 一般財源研究費傾斜的研究費(全学分)研究報告書

研究テーマ [②教育改善研究]

研究課題名	「語学教育における授業と個別学習を連携させる統合的e-ラーニング・プラットフォーム構築の予備的研究」		
研究者または研究代表者名	所属部局名	職名	
神田明延	基礎教育センター	助教授	
研究分担者名	部局名・所属研究機関名	職名	
清水政明	オープンユニバーシティ・人文系	准教授	
亀澤美由紀	基礎教育センター	助教授	
保阪靖人	オープンユニバーシティ・人文系	助教授	
研究実績の概要			
語学に向けたオープンソースコードのLMSと言われるMoodleの研究課題については、神田、亀澤が実際の英語の授業において試験的に運用を行うとともに、清水がベトナム語、中国語等のマルチメディア教材を作成して、このLMSの持つ特徴を検証した。加えて保坂は自らの運営するLMSの経験から数々の示唆を行った。具体的には授業用のポータルサイトとして、主にBBS、課題提出・配布、学生管理、教材作成などのモジュールを運用して、簡易性や多機能性を確認した。またマルチメディアコンテンツ作成においてはそのモジュールの柔軟性を確認した。課題としては、トラブルシューティングや詳細設定についてのサポートがフリーウェアであるが故、難しいところである。本研究費では手に余る外部業者のサポートが必要とされる。また学内事情でサーバーへの外部アクセス不可であったので、本来の特長であるオンラインのメールベースでの情報のやり取りができず、今後の確認検証が必要となる。ただ結果として東京都の交流事業であるアジア大都市ネットワークのために本学に導入された遠隔教育用サーバーに本研究で取り上げたMoodleがLMSとして採用され、次へのプロトタイプというステップは踏めた。 一方計画でもう一つ示した研究対象である一斉授業と個別学習を融合させるソフトウェア、プレーヤーミント(以下「ミント」http://www5b.biglobe.ne.jp/~mint_hs/)については、2回ほどワークショップを開き、他校の教員への認知を広げるとともに、その評価および、最適化を目指してきた。また学内的には本学英語科目「実践英語Ⅰ」の統一教科書をデジタル化して、本ソフトウェアに搭載し学生の自習利用を図った。結果として幸いにもベンダーの協力を得て製品版へと発展できたので、今後は産学連携を目指しながら、研究対象として継続して行く事になる。			

研究発表 [雑誌論文発表、図書、学会発表等]			
著者（講演者）	論文題目（発表題目）	発表誌（発表大会名）	年月
神田明延／田淵龍二	「一斉授業と個別学習を融合させるソフトウェアとコンテンツ」	第115回外国語教育メディア学会関東支部研究大会	平成17年6月
神田明延、岡崎弘信、青山徹夫、津田元紀	シンポジウム「CALLシステムの導入・運用とその将来像―教員・ベンダー・事務当局からの視点」	第45回外国語教育メディア学会全国研究大会	平成17年7月
神田明延	「語学教育環境におけるLMS―Moodle、Groupware、CALL」	NPO法人日本e-Learning学会 2005年学術講演会	平成17年11月
神田明延編著、岡崎弘信、青山徹夫、津田元紀	『CALL導入と運用―より良い語学環境を目指して』	国際語学社	平成18年4月
清水政明、小松恭子、藤本かおる、馮秋玉、宮田剛章、西郡仁朗	「『アジア遠隔教育プロジェクト』日本語マルチメディア教材の開発について」	『日本語研究』第26号	（印刷中）
清水政明	「『アジア遠隔教育プロジェクト』における中級日本語マルチメディアCALL教材の開発」	第116回外国語教育メディア学会関東支部大会	2006年3月
M.Shimizu, F. Du, and M. Dantsuji	“A Project to Construct the Chinese Learners' Parallel Corpus of Japanese and Develop DUT Corpus Linguistics Tools”	<i>Proceedings of the 6th International Symposium on Applied Linguistics and Language Learning</i> , pp.585-595	2005年
M.Shimizu, F.Du, and M.Dantsuji	“Construction of the Chinese Learners' Parallel Corpus of Japanese and Its Preliminary Analysis”	<i>K@ta</i> , 6 (2), pp.91-105, Petra Christian University	2005年
亀澤美由紀	「欠如のカートマス・ハーディの詩」	『文化国際研究』第10巻（東京都立短期大学 文化国際学科）	平成18年1月
亀澤美由紀	「90分の枠を超えて生きる授業―都市教養プログラム＜文化分析批評入門＞がめざすもの」	『クロスロード―TMU FDLレポート』創刊号（首都大学東京FD委員会）	平成17年10月
保阪 靖人	「英語とドイツ語の助動詞の統語的振る舞いにつて―理論的分析とその実例」	『言葉の不変と変容 vol. 1』（専修大学大学院社会知性開発研究センター 言語・文化研究センター）	平成18年3月
保阪 靖人	“Kann das Subjekt beim Passiv auch Agens sein?”	科学研究費 基盤A「人間言語の本質的特性に関する理論言語学・機能言語学・言語脳科学による統合的研究」	”